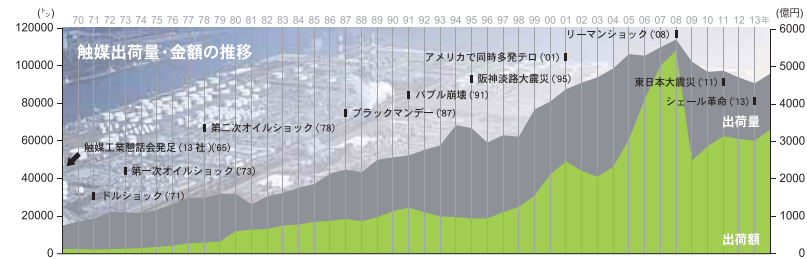


進化続ける触媒工業

触媒工業協会はきょう14日、創立50周年を迎えた。触媒工業は石油や化学、自動車など基幹産業と密接に結び付きながら発展を遂げ、市場規模は半世紀前から数十倍以上に拡大した。触媒の技術革新は最終製品の付加価値を高めたり、より快適な生活を実現するだけでなく、燃料電池などのクリーンエネルギー分野をはじめ新たな市場の創出にも貢献してきた。グローバル経済が加速するなか、日本で培った触媒技術の応用領域は今後さらに広がるかと期待されている。

当協会は触媒工業の健全な発展を促進する目的で1965年に発足し、業界活動の本格化とともに2年後に現在の触媒工業協会に改称された。発足当初は自動車用触媒が中心だったが、現在は触媒や触媒キャリア、販売促進活動など幅広い活動に展開している。78年には自動車用触媒の規格を自主的に策定し、触媒工業協会規格として業界に広げられた。触媒工業は基礎産業として成長し、技術的にも進歩している。石油精製や石油化学工業の原料は触媒を含め、海外からの技術導入も盛んに行われており、安定供給のため強化が望まれている。そのため海外との合併を含めた触媒キャリアが設立され、海外からライセンス供受を受けていた石油精製用

触媒工業協会50周年



市石 知史 会長

新時代開拓へ果敢に挑戦

「触媒工業協会の健全な発展を促進する目的で1965年に発足し、業界活動の本格化とともに2年後に現在の触媒工業協会に改称された。発足当初は自動車用触媒が中心だったが、現在は触媒や触媒キャリア、販売促進活動など幅広い活動に展開している。78年には自動車用触媒の規格を自主的に策定し、触媒工業協会規格として業界に広げられた。触媒工業は基礎産業として成長し、技術的にも進歩している。石油精製や石油化学工業の原料は触媒を含め、海外からの技術導入も盛んに行われており、安定供給のため強化が望まれている。そのため海外との合併を含めた触媒キャリアが設立され、海外からライセンス供受を受けていた石油精製用



パブル後も安定成長

触媒工業協会はきょう14日、創立50周年を迎えた。触媒工業は石油や化学、自動車など基幹産業と密接に結び付きながら発展を遂げ、市場規模は半世紀前から数十倍以上に拡大した。触媒の技術革新は最終製品の付加価値を高めたり、より快適な生活を実現するだけでなく、燃料電池などのクリーンエネルギー分野をはじめ新たな市場の創出にも貢献してきた。グローバル経済が加速するなか、日本で培った触媒技術の応用領域は今後さらに広がるかと期待されている。

公害防止用途で脚光

触媒工業協会はきょう14日、創立50周年を迎えた。触媒工業は石油や化学、自動車など基幹産業と密接に結び付きながら発展を遂げ、市場規模は半世紀前から数十倍以上に拡大した。触媒の技術革新は最終製品の付加価値を高めたり、より快適な生活を実現するだけでなく、燃料電池などのクリーンエネルギー分野をはじめ新たな市場の創出にも貢献してきた。グローバル経済が加速するなか、日本で培った触媒技術の応用領域は今後さらに広がるかと期待されている。

石化発展、国産化へ

触媒工業協会はきょう14日、創立50周年を迎えた。触媒工業は石油や化学、自動車など基幹産業と密接に結び付きながら発展を遂げ、市場規模は半世紀前から数十倍以上に拡大した。触媒の技術革新は最終製品の付加価値を高めたり、より快適な生活を実現するだけでなく、燃料電池などのクリーンエネルギー分野をはじめ新たな市場の創出にも貢献してきた。グローバル経済が加速するなか、日本で培った触媒技術の応用領域は今後さらに広がるかと期待されている。

環境整備・交流活動に邁進

触媒工業協会はきょう14日、創立50周年を迎えた。触媒工業は石油や化学、自動車など基幹産業と密接に結び付きながら発展を遂げ、市場規模は半世紀前から数十倍以上に拡大した。触媒の技術革新は最終製品の付加価値を高めたり、より快適な生活を実現するだけでなく、燃料電池などのクリーンエネルギー分野をはじめ新たな市場の創出にも貢献してきた。グローバル経済が加速するなか、日本で培った触媒技術の応用領域は今後さらに広がるかと期待されている。

水素社会など新たな活躍の場

触媒工業協会はきょう14日、創立50周年を迎えた。触媒工業は石油や化学、自動車など基幹産業と密接に結び付きながら発展を遂げ、市場規模は半世紀前から数十倍以上に拡大した。触媒の技術革新は最終製品の付加価値を高めたり、より快適な生活を実現するだけでなく、燃料電池などのクリーンエネルギー分野をはじめ新たな市場の創出にも貢献してきた。グローバル経済が加速するなか、日本で培った触媒技術の応用領域は今後さらに広がるかと期待されている。

触媒を通じて、人にやさしい地球環境づくりに貢献する。21世紀に輝く触媒工業をめざして。 一般社団法人 触媒工業協会 会長 市石 知史 副会長 砂川 博明 副会長 池田 和夫

- 触媒工業協会会員リスト: Axens, アクセス ファーイースト株式会社, sasol, サノールケミカルズジャパン株式会社, DKSH, DKSHジャパン株式会社, 日本無機化学工業株式会社, アドバンストマテリアルジャパン株式会社, SANGO, 株式会社三五, 東海窯業株式会社, 株式会社野村事務所, Anan, 阿南化成株式会社, JX日鉱日石エネルギー, JX日鉱日石エネルギー株式会社, 東京濾器株式会社, 富士シリシア化学株式会社, NE CHEMIST, エヌイー ケムキャット株式会社, SCS, 昭栄化学工業株式会社, 東邦チタニウム株式会社, フタバ産業株式会社, EVONIK, エボニック ジャパン株式会社, Johnson Matthey, ジョンソン・マッセイ・ジャパン合同会社, NEDO BCL, 日興リカ株式会社, ホーリュウ化学株式会社, 川研ファインケミカル株式会社, 住友化学, 住友化学株式会社, JGC C&C, 日揮触媒化成株式会社, 松田産業株式会社, 関西触媒化学株式会社, セイケムジャパン合同会社, NDU, 日揮ユニバーサル株式会社, 三井金属, 三井物産プラスチック株式会社, 株式会社キャタラー, クライマックス モリブデンアジア コーポレーション, 第一種元素化学工業株式会社, NAA, 日本アルケリアルミ株式会社, 三井物産プラスチック株式会社, CLARIANT, クラリアント触媒株式会社, 太陽鋳工株式会社, 日本化学産業株式会社, 日本化学産業株式会社, umicore shokubai, コミコ日本触媒株式会社, 株式会社光正, 株式会社田中化学研究所, 日本化薬, 日本化薬株式会社, Rockwood Lithium, ロックウッドリチウムジャパン株式会社, コーニングインターナショナル株式会社, TANAKA, 田中貴金属工業株式会社, Nippon Ketjen, 日本ケッチェン株式会社, 堺化学工業株式会社, 中国興業株式会社, 日本触媒, 株式会社日本触媒